

高瀬神社 社報

越中一宮



第64号

越中一宮高瀬神社

令和2年1月1日
<https://www.takase.or.jp/> 撮影：南部スタジオ

令和の御代初めてのお正月

宮司 藤井秀嗣

明けましておめでと〜ございます。

令和の御代初めてのお正月を迎え、皇室の弥栄、国家の隆昌、氏子崇敬者各位のご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は御大礼の諸行事が厳粛裡に斎行され、全ての行事がめでたく執り納められました。また、政府や国民が主催する奉祝大会も盛大に開催され、日本国中が高揚感に包まれたお祝いの年でした。

当神社でも「踐祚改元奉告祭」や「即位礼当日祭」、「大嘗祭当日祭」を斎行し、奉祝の誠を捧げました。また、御神前に「奉祝御記帳所」を設けて多くの参拝者の祝意を受け付け、神社と氏子崇敬者が一体となってお祝いしました。

このように国民挙げての奉祝年だった反面、大きな災害が頻発する年でもありました。平成

の御代、上皇陛下は災害が起こる度に被災地を御訪問され、被災者に寄り添い、御見舞いされました。この御姿、御心を今上陛下も引き継がれ、「即位礼正殿の儀」において、「国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法にのっとり、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います。」と述べられました。国家国民の安寧を只管祈られている御姿は、誠に貴く、有難いことであり、私たちは陛下の御心に感謝しなければなりません。

昨年暮れに日本漢字能力検定協会による「今年の漢字」に「令」が選ばれました。新元号『令和』制定が主な理由であり、その意味は「美しく心寄せあう中で文化が生まれ育つ」ということです。令和二年となる今年も、令和の精神が世の中に行き届き、和やかな年となり、災害や事件・事故など無く、天皇陛下の御心を煩わすことがない世の中になるよ

う祈るとともに、私たち国民は協心努力し、より良い国づくりを励む年にしたいものです。

令和二年は庚子（かのえね）の年で、いわゆる「ねずみ年」です。ねずみは御祭神「大国主大神」と関わりの深い動物です。『古事記』の中に、須佐之男命から試練を与えられた大国主大神が、生命の危機に瀕したとき、ねずみが現れ、大国主大神を助けたというお話があります。また、ねずみは災害などを予知し、災いを避けることも、子孫繁栄の象徴とも言われており、神様にも人間にも近い動物です。

令和最初のお正月が十二支最初の干支「ねずみ」で始まるのも縁起の良いことであり、更に御祭神の神使が「ねずみ」となると、益々の御神徳をいただけるのではないかと期待しています。また、「庚子」の年は原則として「閏年」になり、一年三六六日となります。一日得をする年なので、吉日が一日でも多い年になってほしいと思います。そして四年に一度のオリンピック・パラリンピックが日本国内で開催される年でもあり、賑やかで活気あふれる年になると予想されます。令和二年は、我

が国に多くの実りをもたらす年になってほしいと願っています。

日本の国づくりをされた大国主大神の御加護をいただき、清らかで美しい国土が保たれるように、更には日本の伝統・文化の素晴らしさを伝えられるよう、ご奉仕に励みたいと思います。

本年もどうぞ宜しくお祈り申し上げます。

【ご案内】

福の神である大国主大神は右手に「打出の小槌」を持っておられます。この小槌を振ると、大国主大神の御神徳（おちから）によって、願いが叶えられ、「玉もザクザク出てくる」といわれております。

本年より初詣（三が日限定）にご祈禱をお受けになる方に「大国さまの宝願小槌」と命名された小槌を振り、願いの成就と、お宝（おちから）を授けていただけるよう祈念する神事「小槌の儀」を執り行います。どうぞ廣大無辺なる大国主大神の御神徳をお受けいただきますようご案内申し上げます。

尚、四日からは「神鈴」による「鈴振りの儀」となります。



大国さまの宝願小槌

雄神社

藤井秀弘宮司 高瀬神社名誉宮司

神社本庁長老を祝う会

去る十月十日、「雄神社 藤井秀弘宮司 神社本庁 長老を祝う会」が開催され、県内外より約百五十名が出席されました。

雄神社は、高瀬神社藤井秀弘名誉宮司の本務神社で、本会の開催にあたり、発起人の雄神社 有澤敬一責任役員、高瀬神社 西田明男責任役員、富山県神社庁 松本正昭庁長、並びに両神社総代責任役員の皆様にご尽力を賜りました。

今般の長老を祝う会は、富山市のANAクラウンプラザホテルにて行われ、神社本庁 田中恆清総長、神宮 小松揮世久大宮司より来賓のご祝辞を賜り、お祝いの調べでは、氏子の有澤智恵子さんによるピアノ演奏、また清興として、民謡研究同志会（亀ヶ谷治夫会長）の皆様が、地元富山の民謡を中心に披露され、祝宴に華を添えていただきました。



令和二（庚子）年
皇紀二六八〇年

謹賀新年

名誉宮司 藤井秀弘
宮司 藤井秀嗣

禰宜 藤井典弘

長谷川宏幸

権禰宜 岩田智典

魚岸一弥

巫女 中橋ゆきな

木下咲夢

山田瑠菜

参集殿 中井直美

ウツェンク 平野加奈

辻 百華

囑託 上口友子



祭事暦

例祭(大祭)



九月十三日午前十時、例祭を斎行しました。

祭典では、宮司の祝詞奏上に続き、巫女による神前神楽「浦安の舞」の奉奏、また南砺市の女声コーラスグループ「ソット・ヴォーチェ」の皆様には「越中一宮高瀬神社奉讃歌」を奉唱いただきました。祭典後、楽太鼓修繕にご尽力賜りました大和秀夫氏(氏子雅楽団体 鳳鳴クラブ会長)に感謝状と記念品を贈呈しました。

【篤志奉納者】

大和 秀夫殿



修繕いただいた楽太鼓

功霊殿においては、本殿の参列者にご遺族あわせて百二十名が参列し、例祭が斎行されました。また「井波松風会」による「いろは歌(作・未詳)」、「城山(作・西道仙)」の吟詠も奉納され、参列者一同、英霊に感謝の誠心を捧げました。

奉納吟詠詩文

「いろは歌」(作・未詳)

色は匂えど 散りぬるを
我が世誰ぞ 常ならむ
有為の奥山 今日越えて
あさき夢みじ ゑひもせず

「城山」(作・西道仙)

孤軍奮闘 囲みを破つて還る
一百の里程 墨壁の間
吾が剣は已に摧れ
吾が馬は斃る 秋風
骨を埋む故郷の山



祭事暦

祭日	祭名
一月 一日	歳旦祭
一月 三日	元始祭
一月 七日	昭和天皇祭
一月 二十五日	昭神祭
二月 三日	節分祭
二月 十一日	紀元祭
二月 十七日	祈年祭
二月 二十三日	天長祭
三月 八日	鎮火祭
三月 二十日	春季皇霊祭
四月 三日	神武天皇祭
四月 十日	春季祭
四月 二十九日	昭和祭
六月 十日	祈年穀祭
六月 十九日	風宮例祭
六月 三十日	稻荷社例祭
七月 七日	全
七月 二十一日	七夕祭
七月 二十五日	除熱祭
八月 十六日	人形感謝祭
八月 十六日	中禮祭
九月 十三日	例祭
九月 二十二日	秋季皇霊祭
十月 四日	村まつり
十月 十七日	神嘗奉祝祭
十一月 三日	明治節祭
十一月 十三日	神明宮例祭
十一月 十五日	七五三祝祭
十一月 二十三日	新嘗祭
十二月 三十一日	師走大被除夜祭

◎毎月一日・十三日 月次祭
◎毎月十三日 交通安全祈願祭

観月祭

おどちかくら
大土地神楽奉納

九月十五日午後五時、月を愛で収穫に感謝する観月祭を斎行しました。

引き続き、出雲地方に伝わる国重要無形文化財「大土地神楽」(演目は「悪切」「茅の輪」が一時三十分に分けて奉納され、参列者を魅了しました。

この大土地神楽の奉納は今回で四度目を数え、平成二十五年より隔年で行われています。



杜のにぎわい剣道大会

「第五十七回奉納剣道大会」が九月十六日(敬老の日)に開催され、南砺市・砺波市・小矢部市の小中学生及び高校生約二〇〇名が、日頃の鍛錬の成果を十分に発揮しようと試合に望みました。本年は天候にも恵まれ、第五十三回大会以来の「野試合」の形式で進行、団体戦、個人戦ともに熱戦が繰り広げられました。試合結果は次の通りです。

《団体の部》

- ▽小学生男・女
 - ① 井波剣道スポーツ少年団
 - ② 砺波市剣道スポーツ少年団
 - ▽中学生男子
 - ① 庄西中学校
 - ② 井波中学校
 - ③ 庄川中学校
 - ▽中学生女子
 - ① 庄川中学校
 - ② 庄西中学校

《個人の部》

- ▽小学生男子
 - ① 辻村 陽音 (井波)
 - ② 遠藤 庚伸 (井波)
 - ③ 玉井 健慎 (庄川)
 - 高橋 凜成 (井波)
- ▽小学生女子
 - ① 遠藤 沙希 (井波)
 - ② 太田わかば (庄川)
 - ③ 大谷日葉里 (井波)
 - 野村 晴花 (井波)
- ▽中学生男子
 - ① 吉澤 僚大 (庄西)
 - ② 辻村 侑音 (井波)
 - ③ 足原 多真 (庄川)
 - 坂口 立志 (福野)
- ▽中学生女子
 - ① 板戸美乃里 (庄川)
 - ② 石黒 心寧 (庄川)
 - ③ 西村 優衣 (福野)
 - 高橋 奏乃 (井波)
- ▽高校生男子
 - ① 吉田賢次郎 (南砺福野)
 - ② 白石 悠貴 (砺波)
 - ③ 松川 省吾 (南砺福野)
 - 篠原 一星 (南砺福野)
- ▽高校生女子
 - ① 五十嵐理歩 (砺波)
 - ② 齋藤 未來 (南砺福野)
 - ③ 大橋 美和 (南砺福野)
 - 須田夢里彩 (南砺福野)



献穀田だより



抜穂祭

九月十五日午後二時、井波地域農業者会（岩崎修会長）主催による抜穂祭が、献穀田奉耕者寺西雅典氏の齋田（南砺市高瀬）にて、斎行されました。

祭典では、宮司祝詞奏上に続き、早乙女五名が黄金色に実ったコシヒカリを丁寧に刈り取りました。

収穫された稲穂は、当社の大嘗祭当日祭でお供えされたほか、十月十七日、伊勢の神宮で斎行された神嘗祭に懸（カケ）税として奉献されました。



早乙女奉仕者

- 齊藤 深秋さん（中学生）
- 齊藤 柊香さん（中学生）
- 大谷 愛梨さん（中学生）
- 西野名津子さん（中学生）
- 中島みちるさん（中学生）

初穂曳奉仕

十月十五日、伊勢の神宮で斎行される神嘗祭に先立ち行われた「初穂曳」に、奉耕者の寺西雅典氏、ご家族の寺西孝志・奈津美ご夫妻・岩崎修井波地域農業者会々長が奉仕し、全国の崇敬者と共に神都伊勢を練り歩きました。

夜間には豊受大神宮（外宮）において斎行された「神嘗祭田貴夕大御饌祭」を奉拝しました。



即位礼当日祭



十月二十二日、皇居において「即位礼正殿の儀」が執り行われ、天皇陛下が広く内外に御即位を宣明されました。

「即位礼当日祭」を齋行。責任役員・相談役・高瀬区長・各町内会長参列のもと、令和の御代の弥栄を祈念しました。また、境内に奉祝記帳所を設け、ご参拝の皆様への祝賀も奉りました。



当神社でも、この佳節を奉祝し、同日午前八時、

臨時大祓



十一月十四日より十五日にかけて宮中にて齋行される大嘗祭に先立ち、当神社においても十一月十二日に臨時大祓を厳修しました。

大嘗祭は、天皇陛下御即位後はじめ齋行される新嘗祭のことで、御即位に関する重要な祭祀の一つにあたります。



大嘗祭当日祭 (新嘗祭)

十一月十四日午前十時、大嘗祭当日祭を執り行いました。本年は、大嘗祭齋行にあわせてこの日に齋行し、大嘗祭の奉告と、収穫された新穀を神前にお供えして、神恵に感謝しました。

当日は、氏子崇敬者・農業関係者約七十名が参列し、献穀田(南砺市高瀬)で収穫された玄米を奉耕者 寺西雅典氏、白米を井波地域農業者会 岩崎修会長、白酒を水野敬一副会長が神前に奉納し、五穀豊穰に感謝しました。

本年は、なんと農業協同組合 上田憲仁代表理事組合長に、参向使としてご奉仕いただきました。

祭典終了後、奉耕者の寺西氏、また毎年初詣行事用資材をご奉納いただいた香川俊光氏に宮司



献穀の儀

より感謝状と記念品が贈呈され、参向使より、農業発展に寄与された篤農家の方々に表彰状が贈られました。

【献穀田奉耕者】

寺西 雅典 殿(南砺市高瀬)

【篤農家表彰】

天池 善三 殿(南砺市殿)

高桑 善信 殿(南砺市大鋸屋)

【篤志奉納者】

香川 俊光 殿(南砺市年代)



村祭り

十月六日午後五時、村祭を齎行しました。恒例の子供神輿の渡御は、雨天により中止となりましたが、氏子雅楽団体「鳳鳴クラブ」の奏楽のもと、滞りなく祭典を奉仕しました。

引き続き大国殿で直会が開催され、バイオリン独奏（藤井崇教氏）・琴伝流大正琴（ミュージックボックス）・舞踊（堅香子の会・翔の会）・太鼓演奏（太鼓友氏会）が行われました。



里芋おはぎ茶会



十二月一日、南砺市井波地域特産の里芋を使ったおはぎを味わう「第二十三回 里芋おはぎ茶会」(担当 井波茶道同好会)が行われました。

毎年好評のこの茶会では、薄茶席と香煎席が設けられ、粘り気たっぷりのおはぎと、心尽くしの一服を味わうことができます。



注連縄奉納奉告祭

十二月二十日午前十一時、注連縄奉納奉告祭を齎行しました。

新年を迎えるにあたり、本殿、一の鳥居、二の鳥居など境内各所に心をこめて奉製された真新しい注連縄がかかけられました。

この注連縄には、ご奉賛いただきましたました奉納講の皆様が「願いごと」が編みこまれており、祭典では、張替えの奉告と社運隆昌・商売繁昌・家内安全等を祈願しました。

- 株式会社縄合屋
- 有限会社石森石材
- セダン電子株式会社
- 株式会社越路ガーデン
- 株式会社島田木材
- 藤森工業株式会社
- チューリップ交通株式会社
- となみ観光交通株式会社
- 日の出屋製菓産業株式会社
- 有限会社新井瓦店
- 有限会社さつき堂
- 株式会社九谷屋
- オーバル
- 富山総合ビルセンター株式会社
- 有限会社志晃建設
- 宮窪電気商会
- アンヘルハート
- 株式会社みつ和
- 株式会社社寿屋
- 西部英子

(順不同・敬称略)



令和2年 厄年・身祝一覧

(厄年) 数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
	年齢	年(干支)	年齢	年(干支)	年齢	年(干支)
男	24歳	平成9年(丑)	25歳	平成8年(子)	26歳	平成7年(亥)
	41歳	昭和55年(申)	42歳	昭和54年(未)	43歳	昭和53年(午)
	*60歳	昭和36年(丑)	*61歳	昭和35年(子)	*62歳	昭和34年(亥)
女	18歳	平成15年(未)	19歳	平成14年(午)	20歳	平成13年(巳)
	32歳	平成元年(巳) 昭和64年	33歳	昭和63年(辰)	34歳	昭和62年(卯)
	*36歳	昭和60年(丑)	*37歳	昭和59年(子)	*38歳	昭和58年(亥)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
※*…この年を厄とする地域もあります。

(身祝) 数え年

	年齢		生まれ年	
	年齢	年(干支)	年齢	年(干支)
還暦	61歳	昭和35年(子)	61歳	昭和35年(子)
古希	70歳	昭和26年(卯)	70歳	昭和26年(卯)
喜寿	77歳	昭和19年(申)	77歳	昭和19年(申)
傘寿	80歳	昭和16年(巳)	80歳	昭和16年(巳)
米寿	88歳	昭和8年(酉)	88歳	昭和8年(酉)
卒寿	90歳	昭和6年(未)	90歳	昭和6年(未)
白寿	99歳	大正11年(戌)	99歳	大正11年(戌)

※男女ともに祝います。

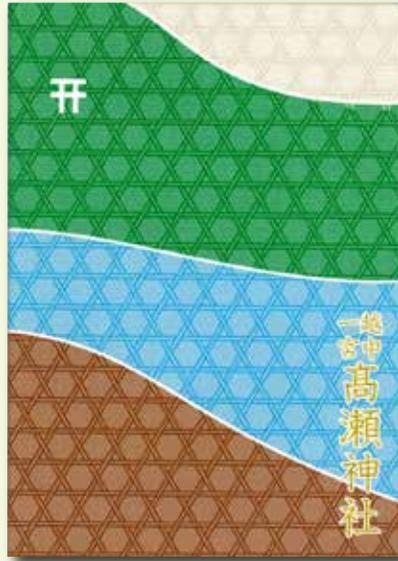
特製御朱印帳

本年より当神社特製の御朱印帳をお頒ち致します。

太古より自然豊かな国土に住む日本人は、自然の中に神々の姿を感じ、畏敬の念を持って接してきました。多くの神様は、今も森厳なる神社の杜に御鎮座されています。

この御朱印帳の表紙の茶色は大地、青は水、緑は森、白は空を表し、我国の国土、また自然との調和を大切にする神道を表現しています。また、模様の籠目紋は、古くから魔除けとして用いられてきました。

この御朱印帳を手にならぬ津々浦々の神社を巡られ、その地の神様を感じ、御朱印をお受け下さい。



御朱印帳袋・葉

昨年より、御朱印帳袋と葉を授与しております。袋・葉とも、富山県南砺市福光（旧福光町）で生産されていた福光麻布を用いています。昭和天皇の儀式での供給を最後に廃絶している為、現在では生産されていない貴重な麻です。



- ※御朱印帳 一、五〇〇円
- 御朱印帳袋 一、五〇〇円
- 葉 三〇〇円



御社殿屋根修復（令和元年六月一日〜令和元年十一月三十日）敬称略
 ご奉賛頂きました皆様、誠に厚く御礼申し上げます。

特別奉賛金奉納者

〔百万円〕 砺波地区農業協同組合協議会
 〔五十万円〕 笹嶋工業株式会社
 〔三十万円〕 川合 昭至
 高輪 昌法
 岩田 智典
 (有)福光屋
 〔二十万円〕 小西 政寛
 長井 利彬
 中嶋 正昌
 〔十五万円〕 石橋 勇
 〔十二万円〕 藤田 春枝
 〔十万円〕 寺西 友則
 玉井 英治
 四塚 一成
 石岡 正二
 小西 喜芳
 中嶋 清志

牧印刷株式会社
 川田 政和
 〔五万円〕 橋場 武志
 岩倉 一郎
 寺西 清子
 寺西真牙騎
 平野 加奈
 となみ野吟友会
 辻 百華
 玉井 順一
 傍田 敏夫
 長谷 一郎
 張田 真
 豊川 圭一
 赤松 勝弘
 中橋ゆきな
 山田 茂
 傍田 一秀
 小西 孝明
 (有)エーカン社
 岩倉 清司
 盤戸 心美
 岩倉 和穂
 長井 正彦

岩倉 巧典
 三田 誠
 森井 和美
 〔三万円〕 川田 正樹
 長澤 竹夫
 久恵 光夫
 竹村 武夫
 〔二万円〕 仲村歯科医院
 坂本 真菜
 中澤 嶺
 新田悠紀雄
 村松 輝智
 向井 清明
 大久保光夫
 森田 光正
 武部 太文
 田口 朋佳
 林 真司
 里子 義範
 寺西 拓巳
 島田鮎弥依
 〔五千円〕 藤岡 忠史
 長森 義博
 朴谷 光男

和田 邦彦
 豊田 健二
 駒井 照美
 ブル・マール
 米納 和也
 本江 佳純
 結城 清治
 水上 勝博
 河合 一郎
 出水 邦夫
 堀川 淳
 池田 雅彦
 酒井 正一
 高垣 良照
 吉井 健二
 境 正子
 向田 壮
 小山田圭子
 今井 春継
 浅井 貴幸
 近川 恭子
 高永 周寛
 多谷 大樹
 小泉 由和
 城寶 貴大
 水越 和弘

銅版奉納者

中井 正義
 真諭美
 中井 麻衣
 大岩 裕樹
 細谷 覚
 本田 貞次
 坂本 真菜
 佐藤 恵美
 澤邊 学
 高瀬 憲正
 宗像 博
 高瀬 信弘
 小池 弘康
 山田 省子
 清水 和幸
 陽子
 金田 茂之
 一ノ瀬 彰
 中澤 嶺
 安達 知之
 中田 正夫
 吉野 康隆
 山本美保子
 齊藤 文
 賀茂別雷神社宮司
 田中安比古

(有)アート・キュービックス
 本郷 浩次
 まゆみ
 篠山 徹
 中居 雅美
 中川 真衣
 中川 靖夫
 加藤 祐志
 中山侑唯人
 藤井 等
 白綾 貴子
 米納 和也
 山崎 智広
 田中 一好
 遠田 俊幸
 藤原 元
 柴田 典光
 沖田 修正
 田上 弘
 乗附千佳子
 永田由紀子
 高瀬 浩一
 河原 律子
 山田 省子
 折橋 貢
 森田 正
 稀美 勇
 年代 勇

年代 幸子 歩
 年代 幸子 歩
 高瀬 定佳
 高瀬 秀子
 河合 昭一
 武部かずえ
 高畑 敏朗
 水上 勝博
 佐野 清司
 伊東要史子
 龍神チエンソ
 アート倶楽部
 龍 けい子
 笠島 康晴
 山田 省子
 小川紡夢樹
 小石 達人
 能登 栄智
 能登 明子
 中本 達也
 小泉 由和
 小出 育功
 東 弘子
 山田 省子
 上野 玲子
 五十嵐幸恵
 澤井 敬史
 石川 俊夫
 谷口 泰之
 石川 正子

※奉賛金・銅版奉納は随時受付ておりますので、ご奉納をお願い致します。

ご案内

同級生と厄祓

同窓会や里帰りに合わせ、同級生との「厄祓」を受け付けております。

年頭にあたり、ご友人とお揃いでご祈祷をお受け下さい。

期間 新年初祈祷の受け付けは

二月三日 節分まで

午前九時から

午後四時三十分まで

の間にお越し下さい。

(節分以降も随時ご祈祷を承っております)

祈祷料 五千円より

ご志納願います。

戌の日 (安産祈願)

1月8・20日

2月1・13・25日

3月8・20日

4月1・13・25日

5月7・19・31日

6月12・24日

腹帯のお祓いも行いますので
ご持参下さい。

節分祭 (豆まき)

二月三日 午後三時齋行

祭典終了後には福豆・福飴を授与しますので、ご家族お揃いで、是非ご参列下さい。

歯固め石

当神社では、お食い初めの石「歯固め石」を授与しております。

※「歯固め石」とは、生後百日頃は、赤ちゃんの歯が生えはじめる時期です。お食い初めの行事では、赤ちゃんに石のよう

うに丈夫な歯が生える事を願う「歯固めの儀」を行います。この「歯固めの儀」で使われる石の事を、「歯固め石」と言います。



○「神饌米」

井波地域農業者会殿

奉耕者

寺西 雅典殿

氏子

岩倉 和弘殿

○「初穂米」

氏子 岩倉 勲殿

立山町半屋 村木 謙一殿

○「干柿」

天池 善三殿

○「里芋」

河原 祥滋殿

○「菊花」

橋場 哲也殿

○「千支絵」

松平 信一殿

○「干支絵」

小矢部市鴨嶋 森川外茂男殿

○「日章旗」

氏子 大和彌壽夫殿

○「古代米」

富山市婦中町 松田 久男殿

○「大注連縄」七張

富山市古鍛冶町 大谷美術学園 園長 大谷 弓子殿

○「表紙写真」

千支(子)大絵馬と 大谷美術学園の皆さん

○「大注連縄」七張

高瀬神社注連縄奉納講員

○「表紙写真」

千支(子)大絵馬と 大谷美術学園の皆さん

○「表紙写真」

千支(子)大絵馬と 大谷美術学園の皆さん

○「表紙写真」

千支(子)大絵馬と 大谷美術学園の皆さん



※各奉賛者については、八頁をご覧下さい。

各種お問い合わせにつきましては、社務所へご連絡下さい。

(0763) 821-0931

社報バックナンバー

当神社ホームページでご覧頂けます。

○「表紙写真」

千支(子)大絵馬と 大谷美術学園の皆さん

○「表紙写真」

千支(子)大絵馬と 大谷美術学園の皆さん



発行日 令和二年二月一日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291

TEL 0763-82-0933 FAX 0763-82-3004

編集人 魚岸 一弥

印刷所 牧印刷株式会社

結びの杜の神前式



日常の喧噪を隔てる境内で、参進の儀にはじまり
社殿に響き渡る雅楽の調べのなか、厳かな神前式が叶う
大国様の「結び」の御神徳により、両家の絆も強く結ばれる

一日一組のプライベート空間

◆◆ 新参集殿 ◆◆

すべては一組の新たな夫婦の幸福のために



只今ご予約受付中

あなたの人生に、神社がある。越中一宮 高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 検索